

幼児期～学童期の 発達障害への対応

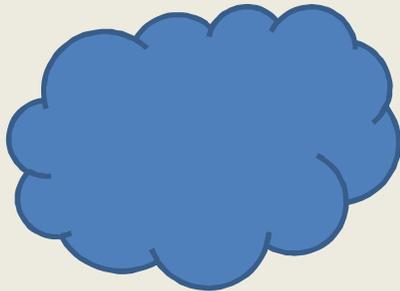
Rabbit Developmental Research

医学博士

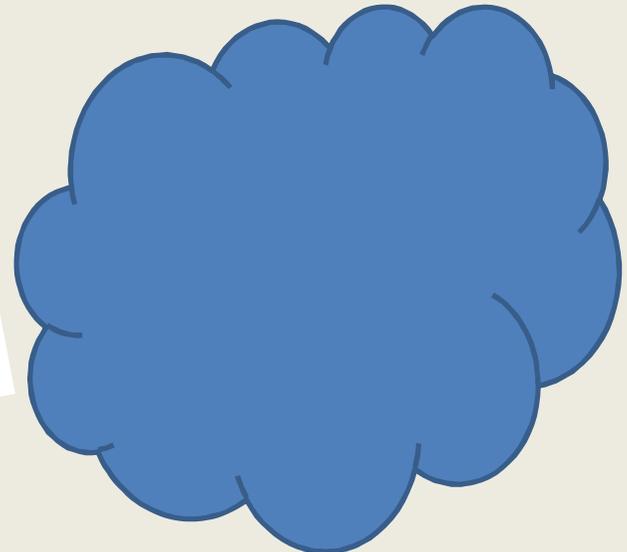
平岩 幹男



大きいか小さいかは別として
かけらはみんなが
持っている



発達障害

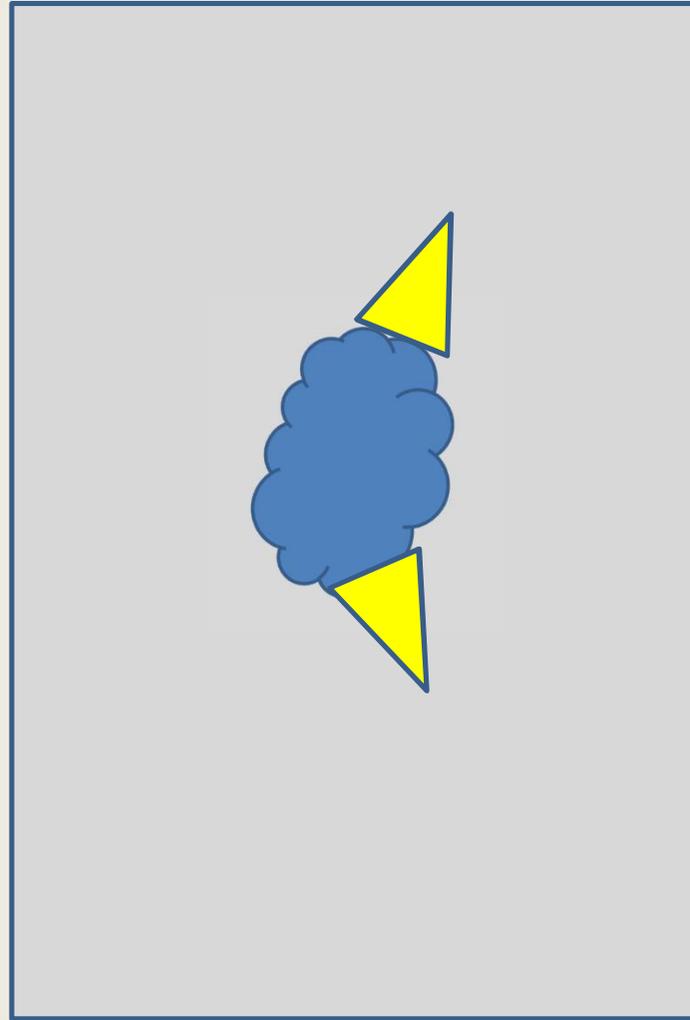
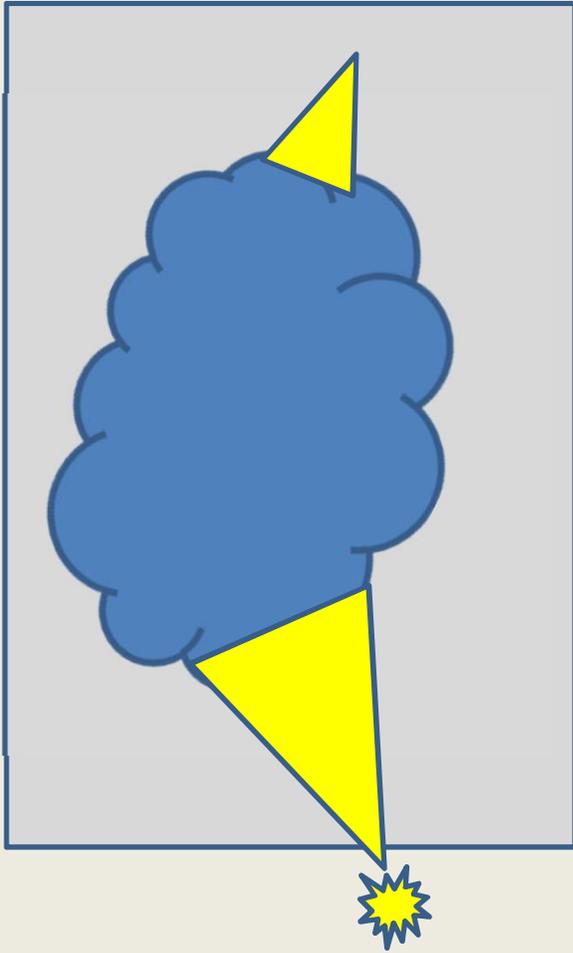


問題はかけらがトゲになって刺さるかどうか

発達障害のかけら

- 目を合わせて話すことが得意ではない
- 多少なりとも自分なりのこだわりがある
- 話し始めると止められないことがある
- じっとしているだけでいらいらすることがある
- 予定が急に変更されると戸惑うことがある
- 集中力が途切れがちになることがある
- 突然していることを投げ出したくなることがある

トゲが刺されば障害 : 環境も



対応のゴールは
かけらを消すことではなく

トゲによって起きる社会生活上の
困難を減らすこと
今そこにあるトゲだけではなく
将来刺さらないようなトレーニング

発達障害とは？

- 発達障害

発達の過程で明らかになる行動やコミュニケーションなどの障害で、根本的な治療は現在ではないが、適切な対応により社会生活上の困難は軽減される障害

発達そのものの障害ではない

発達障害で考えること

- 診断が本当に必要なのか
 - 必要なのは困りごとへの対応
 - しかし診断がないと支援手続きがとれない
- 治るのか
 - 社会生活の困難を減らすことが目標
- 増えているのか
 - 社会の寛容度によっても変わる
- 社会生活の困難の見極め
 - 時間もかかるが合理的配慮も

発達障害の種類

- 自閉症スペクトラム障害 (ASD)
Autism Spectrum Disorder
→知的障害を伴う(言葉の遅れがある)
→知的障害がない(言葉の遅れがない)
- ADHD(注意欠陥・多動性障害)
→Attention Deficit/ Hyperactivity Disorder
- 学習障害
周辺としてトゥレット障害や選択性緘黙など

3つの介入が必要な状況

- 言語発達の遅れる自閉症スペクトラム障害
→介入の遅れは発達予後に影響する
- 高機能自閉症やADHD
→適切なトレーニングは効果がある
→すぐに薬物療法は見極めがむずかしい
- 発達性読み書き障害（ディスレクシア）
→まず見つけて、そしてトレーニング

診断があってもなくても

- 診断があってもなくても困りごとがあれば
→対応は必要、そのための練習も必要
- 「障害レッテル」はまだ社会的な理解が十分
ではなく、保護者の拒否感を呼びやすい
- 困りごとをどう伝えるかではなく
→どう前向きに共有するか
→そのためにはみんなが対応を獲得する
- 誰かに任せれば何とかなるわけではない

自閉症スペクトラム障害(1)

- 自閉症スペクトラム障害
社会性や対人関係の障害(コミュニケーションも)
こだわり(常同行動や感覚過敏・鈍麻を含む)
- 脳の機能的障害で「知的能力」にも「症状」にも
強弱などを含めて連続性(スペクトラム)がある
- 全体での頻度は1~2%とする報告が多い
- 男子が3~6倍多い

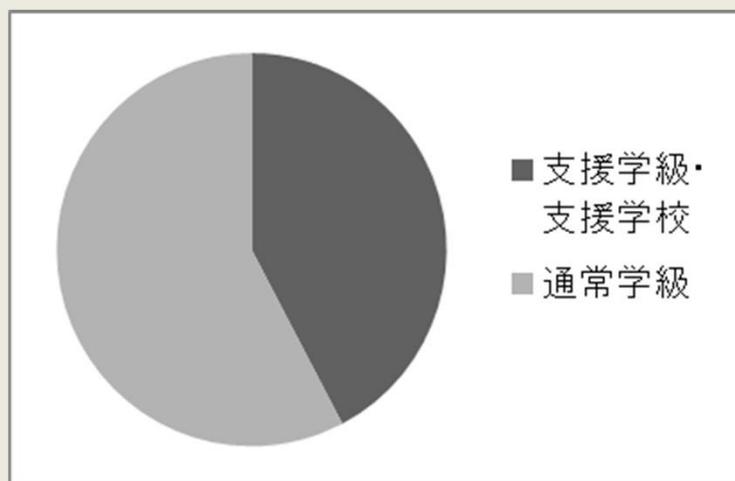
自閉症スペクトラム障害(2)

- Kannerの自閉症(ASDの25~35%)
 - 1943 Leo Kanner が最初に報告
 - 多くは言葉の遅れ、知的障害と見なされる
 - 療育的対応によって変化がでることもあるが知的課題を抱えたまま成人期に至ることもある
- 高機能自閉症(ASDの65~75%)
 - 1944 Hans Asperger が最初に報告
 - 言葉の遅れはないかあっても軽度
 - しばしば二次障害で発見される
- 現在遺伝子で説明できるのは数%以下

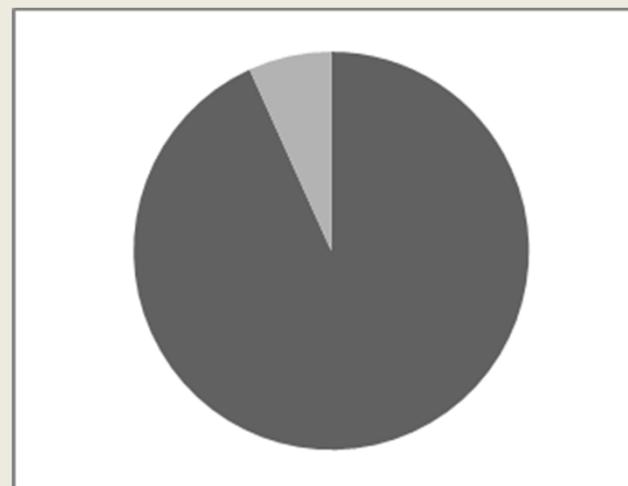
自閉症のブラックイメージに

医療も保健も教育も社会も
そして保護者も
染まっているかもしれない

小学校への就学



- 個別療育群
2013～2016 n=104
- 3歳時点で無発語・単語
- 後に通常→支援3名



- S療育園
2010～2015 n=59
- 属性は不明
- 予後経過も不明

一つ一つの トレーニングは3分でも

何回でもしてみても、積もれば大きい
しつこくしない、タッチ&ゴー
リハビリテーションの原則でもある

触ってみる～目合わせを試みる



- おむつ替え、入浴前後とにかく触ってみよう
- 表情の和らぐSWEET SPOTをみつけよう
- 見つけたらしつこくではなく、ちょこちょこ触ろう
- その時に目合わせができれば最高！！

しつこくしない、出来たらまたやる

目合わせの練習



タッチ & ゴー

- 子どもの手を自分の頬につける(小さければ耳でも・・・目が合うかな)
- 自分の手を子どもの頬に当ててみる
- 目が合っただけでほっとする瞬間を目指そう
- 黙ってしないで言葉かけを忘れないこと

話しかける・言葉のシャワー



- 母親の言葉は子どもにとっては音楽と同じ
- いろいろなことを文章で語りかけて言葉のシャワーを浴びさせよう
- 聞いているような瞬間が出たら、満面の笑顔で語りかけよう

単語ではなく文章で

手あそびうた



- 簡単なのは「糸巻き」や「ひげじいさん」
- 動作と音声の模倣
- まずは動作模倣を狙う
- 反応したらそこを繰り返してみる
- はっきりでなくても声が出たら喜ぶ
- 進化形が「絵描きうた」
→ 幼児期

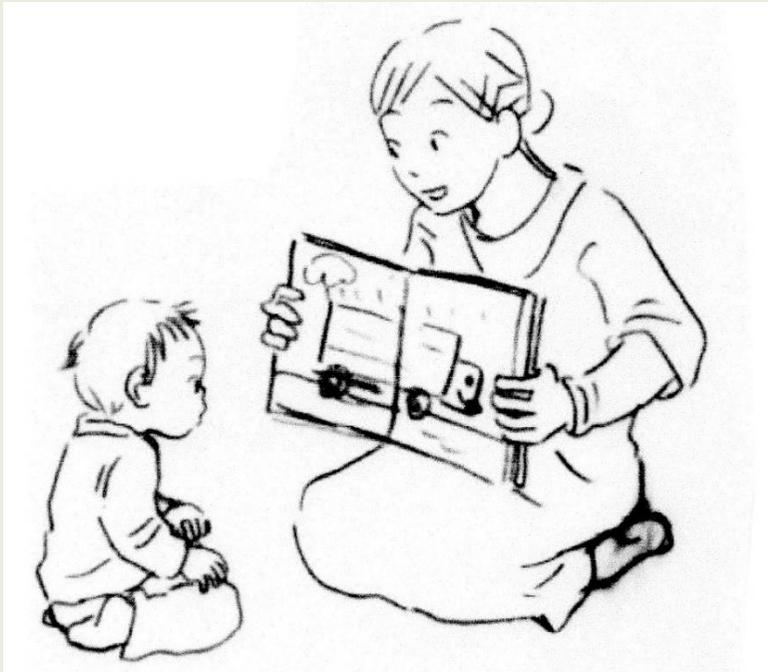
動作を指示する



- 手をパチパチしよう
- ばんざいしてみよう
- 言葉をかけながら子ども
もの手を取って
- 語りかけながら
- いずれは手助けなしで
できるように！

出来たら満面の笑みで

本の読み聞かせをする



- 本の読み聞かせは習慣にしよう
- 最初は見えていなくても続けてみよう
- 少しでも見るようになったら大成功
- 子どもに渡すと頁めくり
- 将来は指さしとの連動にしていこう

Background Musicのつもりで

タッチ



- 「タッチ」の声掛けでタッチができれば・・・まずは最初のゴール
- できるようになったら何度も連続しないで少し間をあけてしてみる
- できなければもう一方の手を添えて誘導しても
- 必ず「タッチ」の声を出す

ここまで来れば一段落

指差しから共同注視、見立てへ

- 共同注視は指差しの最終段階
→ここまできればクレーンは減る
- 遠くのものを指差すとそれを見る
→子どもが見て欲しいものを指差す
- 積み木を電車に見立てて走らせる
→そのうちに声も出る
- 見立てからごっこ遊びへ(対人関係性)
→おままごと、たたかいごっこ

ハイで手を上げる



- 最初は名前を呼んで手を挙げる
- ..できる子 手を挙げて
- ..する子 手を挙げて
- ハイと言いながら手を挙げる
- そこでまずほめる
- それから指示を出す
- できたらほめる
- 注目させてから指示を出す

ハイタッチ



- 2歳前から可能
- 視線を合わせるには両手で
- 指示する、手挙げ、ハイタッチ
- ごほうびにも
- 切り替えにも

ハイイからハイタッチに 自己決定＋達成感



言葉の発達

- 声を出す、喃語
- 音をまねする
- 単語が出る
- 要求語が出る
- オノマトペが使える
- 文章の構成(助詞が使える)
- 接頭語、接尾語、もし・・・構文が使える
- 字が読めるなら文字を使う

まずは受容言語を増やす



- 言葉の池に水がたまるようにわかる言葉が増えて、あふれてくるのが自発語
- 単語を言わせようとして何度も失敗していると言わなくなる
- 受容言語が増えだしたら文章で指示する

いぬと ねこが あるく

- 逐字読みから文節読みへ
- まずは「音をひろって声に出す」
- 次に「文節での読み取り」の練習
- □□と ねこが あるく？
- いぬと □□が あるく？
- いぬと ねこが □□してる？
- 音読にして助詞の使い方も覚える
→定型なら3歳ころまでに理解しているが・・・

言語においても模倣は重要

- 模倣は多くは動作から始まり音声へと広がる
→動作をしながらの喃語は言葉の「卵」
- 単音の模倣から2～3文字の模倣へ
→意味のある単語の習得へ
- 言語においても最初は模倣、明瞭度も低い
→ジュース(ジュ)、ちよーだい(ダイ)
→か行、さ行の明瞭な発音は遅れる
- 模倣言語からコミュニケーション機能としての言語への転換が必要になる

よくわからないけど単語らしい

- そうした音声が出てきた時にすぐにちゃんと発音させようと言い直しをさせない
- 「じょー」と言われたら「ゾウさんだね」と返す
- 喃語から様々な音に変化してくるが
→自分の世界に入っている音はつながりにくい
- 「ちょうだい」が「ちょ」、「ジュース」が「ス」
→これも言葉のはじまり
- 言葉はコミュニケーションツールである

だってぼく動物園に行きたいんだもん

ほらこんなに早く走れるようになったよ

HFASD(高機能自閉症) 時にはAsperger症候群

- 知的には劣っていないのに
- 会話がうまくつながらない、指示が通らない
 - 友達ができない、うまく遊べない
 - 何かに熱中しはじめると止まらない

という子どもたちがいることを1944年にオーストリアの小児科医Hans Aspergerが最初に報告し、その後色々とわかって来た

たとえば高機能自閉症の集中力

- 疲れを知らない、集中するパワーは、すごい
- 凡人にはまねができない
- しかし子どもの時には、集中力は社会的に必要とされないことで発揮されることが多い

- そのパワーが授業中に発揮されれば・・・障害
・・・社会的に必要とされていない場合には
- そのパワーが職業に生かせれば……………才能

社会性(社会的相互交渉)の障害

- 人と関わることが苦手
 - 目を見ること、視線を合わせるのが苦手
 - 目を見ていると錯覚してもらう
 - 手をつなぐ、体に触る・・・苦手
 - 短時間から慣らす
 - 同時に何人かに対応する・・・とても苦手
 - 順番に対応する
- 急な変更に対応できない
 - 予定の急な変更・・・あらかじめわかるように

こだわり

- 手順や道順にこだわる
→いろいろなやり方をマスターする
- 感覚過敏がある
→基本は馴化。場合によっては回避
→イアーマフ、ヘッドフォン
→違和感のない手触りの良いもの
- ひとりごとや反復性行動
→場所を選ぶ

想像力の障害

- ここはどんな場所なのかが理解できない
 - 静かにしている場所？ 騒ぐ場所？
 - テンションコントロールにはカウントダウン
- 相手がどう感じているかが理解できない
 - だから自己主張が強いと思われる
 - 話す順序を学習する
- 見ればわかるだろう・・・わからない
 - 見なければわからない・・・適切な指示が必要

感覚過敏をめぐって

- 聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚
→過敏も鈍麻も見られる
- 過敏が社会生活上の困難になるなら
→少しずつ急がずに慣らそう(馴化)
- 過敏が自分の世界への入口ならば
→切り替えることを考えよう
- 過敏は「こだわり」の一部なので
→慣れる、切り替えるが基本

感覚過敏には馴化か開き直り

- 馴化して慣れた方が生活はしやすい
→しかしすべて馴化できるとは限らない
- 物理的に感覚を遮断、減弱
→イアーマフ、ヘッドホン、耳栓、プロテクター
→鼻つまみ、目隠し、サングラス
→オブラート、飲み込む、混ぜ食べ
- 開き直る
→できないものはできない
→ときどき感覚遮断に逃げ込む
→野菜嫌いでも青汁、ビタミンを飲めば良い
- ときどき逃げ込んで時間を稼ぐ

高機能自閉症:その将来は？

- 高機能自閉症では、コミュニケーションが下手なかわりに、正直、まじめ、率直、正義感(my)などが長所
- 向いていない職業としては
 - 営業マン(特に訪問販売など)、店員
 - 窓口業務が主な公務員、銀行員など
- 向いている職業としては
 - 技術者、音楽家、芸術家、棋士、コンピューター関連(SE,インストラクターなど多数)、研究者、教師、警察官・自衛官、介護、動物関連

ADHD

- 一次性の症状
→不注意性、衝動性、多動性
- これらの症状により社会生活に困難がある
- 2つ以上の場面で6か月以上続いている
- 12歳以下に症状が明らかになる
- 自閉症との併存例もある
- 適切に対応しないと早期から二次症状が出やすい
- 児童虐待でも似た症状になりうる
- てんかん、熱性けいれん、母の喫煙は危険因子

ADHDの治療戦略

- 抱えている社会的困難を理解する
- SST, LSTなどのトレーニングをする
- 家庭・学校などの環境調整をする
- DBDマーチを防ぐ(なっていれば進行を抑える)
- Self-esteemを高める
- 二次障害を予防あるいは治療する
- 症状を軽減するために薬物療法をする

ADHDの衝動性のコントロールは 生き延びるか落ちるか

セルフコントロールをするか
適切な人的サポートを受けるか
クレジットカードは使わない

衝動性の症状

- 話や列に割り込む
 - だまっていられない、一番がよい
 - 砂時計:がまん「ほめられる」
- 突然行動を起こす
 - 行動の原因を考える
 - 問題となる原因をへらす
- 衝動的に手を出す
 - 原因と状況を考えて「ほめて消す」

多動の症状

- 注意をしても止まるのは「その時」だけ
- じっとしているのが苦手
 - 坐っていてもすぐにもじもじ
 - 1分座っていたら「ほめる」から始める
 - 小さなお手伝いをさせてほめる
- 動き回る
 - 本の読み聞かせでも歩き回る
 - 1分座っていたらほめて時間を延ばす

薬物療法よりは練習

- できなかったことを「場面設定をして練習する」ことで「できてほめられる」ようにしよう
- 不注意の症状や衝動の症状はとかく薬物療法の適応とされがちだが、練習することで「できること」を増やすのが先
- 発達障害があろうとなかろうと基本は同じ
- 叱って子どものself-esteemを下げるより
→できるように練習して、ほめて上げる

ADHD: その将来は？

- ADHDを抱えていると、動き回ったり気分を変えることが得意→まるで二人乗り自転車 (tandem)
- じっくり取り組むことは苦手
- 得意な職業: セールスマン、営業担当、電話勧誘、マスコミ関係、窓口業務、案内係りなど
- 不得意な職業: 技術・設計関係、著述業、教師、警察官、音楽家、プログラマーなど

学習障害で最も多いのは・・・

- 発達性読み書き障害（ディスレクシア）
 - 読むことが苦手・・・読めないまで**スペクトラム**
 - 読めないまま放っておくと語彙が増えなくなる**
 - 読めなければ書く障害も出てくる
 - 読みの障害：音韻障害が見つかりやすい
「かえる」を反対から言わせて見よう
- 算数障害
 - しばしば空間認識の障害もある
 $2+3$ $5+3$ $8+3$ $11-4$

ディスレクシア

- ほとんどのケースは診断すらされていない
- 初見の簡単な文章を読ませることがカギ
- 当日の朝食の内容と前日の夕食の内容が言えるのに、国語の点数が低い・疑ってよい
- ひらがなが「瞬時に」きちんと読めない
- 音のまとまりとして単語が認識できない
- 軽症を入れると2%？
- 診断書があれば共通一次の試験時間延長
- スペクトラムなので軽症例から重症例まで

学習障害にこう対応してみたら・・・

- ひらがなを間違えずに読む(ICTやカード)
- 音のまとまりとして単語を読む
- 単語読みから文章読みへ
- 読みの異なる漢字は熟語で覚える
- フォントを工夫する
- 鳥取大学音読：無料
- 教科書、本の読み上げ(DAISY)(Access Reading)
- 発達性読み書き障害(ディスレクシア)トレーニングブック



乳幼児健診と 発達障害

1歳6か月児健診

3歳児健診

5歳児健診

1歳6か月児健診での頻出語

1.	ワンワン	477人(59.5%)
2.	パパ	444人(55.4%)
3.	ママ	436人(54.4%)
4.	バイバイ	302人(37.5%)
5.	マンマ	297人(37.0%)
6.	ブーブー	226人(28.2%)
7.	ニャンニャン	194人(24.2%)
8.	ネンネ	167人(20.8%)
9.	イタイ	146人(18.2%)
10.	チョウダイ	76人(9.5%)

1歳6か月児健診と発達障害

- 自閉症の一部は発見される(Kanner型)
 - 言語発達の遅れ
 - 通常は自発言語での判定
 - 非言語的なコミュニケーションの遅れ
 - 正確なスクリーニングが難しい
- ADHDは発見されない
- 学習障害も発見されない
- 疑ったり診断するなら対応を！

3歳児健診と発達障害

- Kanner型の自閉症は見逃せない
→療育の遅れは発達の遅れに直結する
- 高機能自閉症
→対人関係、話し方から一部が診断可能
- ADHD
→多動・衝動型の一部が診断可能：割り込み
- 学習障害：基本的に診断できない
- 言語発達の遅れを見逃さないこと

4－5歳ころの健診

- 肥満と低身長には要注意
- 視聴覚のチェックが重要
→乱視、近視、浸出性中耳炎、アレルギー
- 発達障害への対応
高機能自閉症
ADHDなどの疑いが可能
- 永久歯萌出を控えている
→「う歯」には治療を、歯磨き確認を
- 問題は適切なフォローができるかということ

ほめる
しかる

ほめるということ

喜びを共有すること

叱るということ

同じことが次に起きないようにすること

ほめることが大切
であるといくら聞いても
できない

それは練習しないから

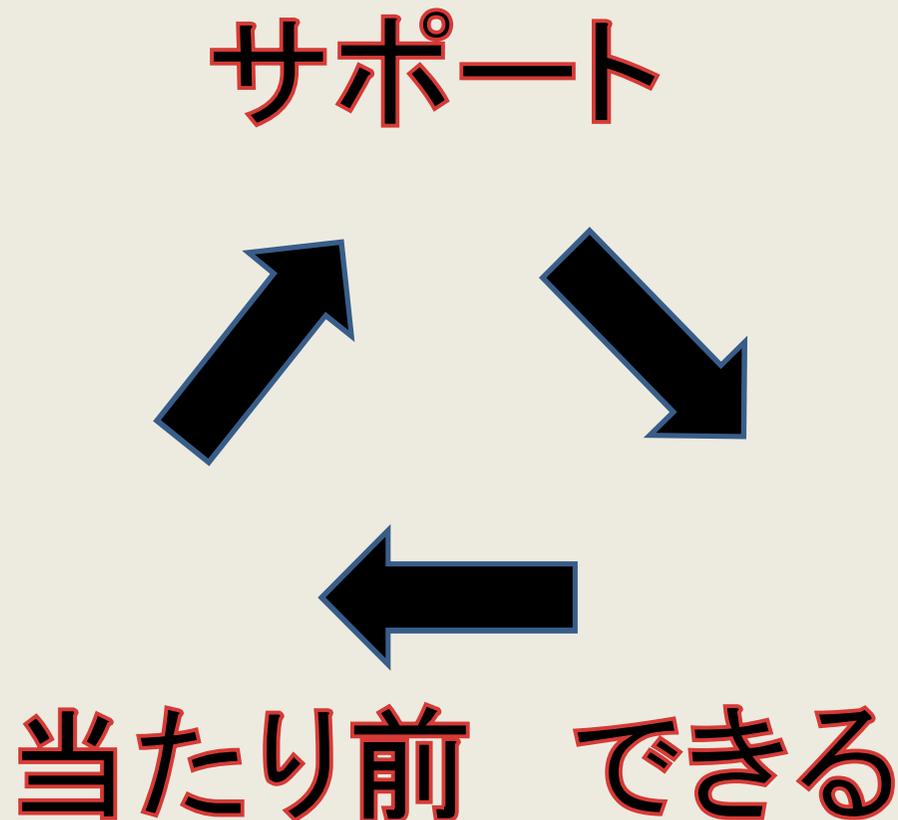
ほめるということ

- 出来て当たり前・・・
→それでは前には進まない
- 列に並ばなければ注意する
→ならば、きちんとならんたらほめる
- ほめる手間を惜しむことは子どもの
self-esteemが上昇する機会をのがす
- 「ほめる」ゴールは「喜びの共有」

ほめる・・ほめ上手とほめ下手

- ほめることは「技術」と「経験」
- ほめ上手は気軽にほめる
- ほめ下手は「ほめる」ことをためらう、待つ
- だれでも「ほめ上手」にはなれる
 - 子どもとうまくつきあうための基本
 - 思ったらすぐにほめる
 - 繰り返し口に出して練習すること

できなければサポートして「できる」に！



- できるためには
→わかる指示をする
- できないことをできるようにするためには
→サポートする
- サポートしてできたら
「ほめる」
→当たり前ではない

ほめるサイクルを回す

- 目標1日50回：基本はカウントする
- できるためには
 - わかる指示をする
 - 横や後ろでなく、前から指示を出す
- できないことをできるようにするためには
 - 手伝う
 - 手伝ってもできたら「ほめる」
 - 手伝いは減らせるが、「ほめる」は変えない

3秒待つ

注意するとき

1秒以内に

ほめるとき

ほめ言葉



- 口に出して練習しなければできるようにはならない
- 最低でも5種類
- 練習していれば1秒で出る
- していなければ3秒かかる

1秒以内(秒速)

- 反応すべき時点から1秒以内に対応
 - ほめるときにはすぐに反応
 - 思い切り感情を込めて
 - ほめる以外では感情的にならないこと
- 動作的な補助を使うことも
 - ハイタッチなど動作的な補助も役立つ
 - ありがとうも褒め言葉

ほめ言葉

- やったね
- すごいね
- さいこー
- カッコいー
- すばらしー

「ほめる」と「おだてる」は違う



- 「ありがとう」は、ほめ言葉の第一歩
- ありがとうには下心なし
- それは「何かしてもらった時に」言うから
- だったら**お手伝い**を増やしてみよう

お手伝いは万能のトレーニング

- することで「ほめられる」
- している間は「主導権がない」
- することで「生活能力が上がる」

- お手伝いをスルーしない
→必ず声かけ「ありがとう」、ハイタッチ
- お手伝いだけにこだわるとうまくいかない
→基本は指示する→できる→ほめる

3秒

- 頭の中で1, 2, 3 それから話す
 - かなり練習が必要
 - 感情のたかぶりを抑える
- 冷静に話す
 - 子どもに説明させる、説明できたらほめる
- 叱るより事務的にすべきことを指示する
 - それができれば叱ることは不要かも知れない
- その行動を止めることではなく
 - 次にその行動が起きなくなることが目標

3秒ルール



- 怒りのエネルギーを子どもにそのままぶつけない
- 3秒待つだけでかなり冷静になれる
→怒りがおさまる
- これには練習が必要
- 安全に関わるときは別

これまで失敗して
叱られた場面を
練習しよう

叱られていたことが
うまくできて褒められる

砂時計は使える

待つトレーニング



まずは1分間座る練習から



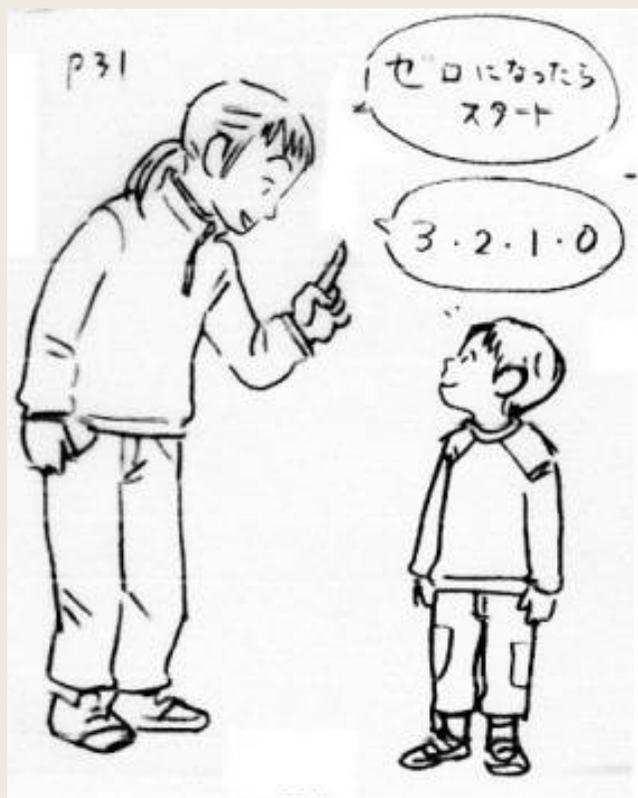
- ちゃんと1時間座っていなさいではなく..
- まずは1分間砂時計
- それを少しずつ延ばす
- できたらほめる
- 途中で立ったら続きから
- 足を床につける

1分待てたよ！



- いつも会話に割り込んでいた
- 砂時計を見ながら1分間待つことを覚えた
- 待てたら褒めてもらった
- 途中でそれたら続きから

カウントダウン



- テンションコントロール
→0でクールダウン
- 行動のスタート
→0でスタート
- いきなり切り替えるのが
苦手ならばこうして練習
- 3, 2, 1, 0
→5から10から

「どうして(なに?)」を言う



- 気になったことがあって肩をたたかれた
- 叩かれたと思って殴り返した
- 叩かれたときに「どうして(なに?)」と聞くことができればトラブルは減少する

まずは子どもと練習

「やめて」と「ごめんさい」



- 腕を掴まれた方が「やめて」
- そう言われたら掴んだ方が「ごめんなさい」
- これを交互に10回繰り返す
- 練習は役に立つ

負けても「まあいいか」



- 負けたときに「まあいいか」を言う練習
- じゃんけんなどのテンポのよいもので
- 一番ではなかった、負けてしまった
→まあいいかでトラブルは減る

UNO,7ならべ、すごろくへ

あいさつ



- おはようございます
- こんにちは
- さようなら
- いただきます
- ごちそうさま
- ありがとう
- ごめんなさい

就学までには身につけたい

小学校4年生の
2分の1成人式は
いかどうかは別として

大人になるまでの
道筋を考える年齢
→逆算して考える

10歳からのモラトリアム期間は

知的障害がある方が
一般的に短い

モラトリアム(猶予期間)(1)

- 義務教育を終えてから就労するまで
 - 定型では3~9年後
 - 知的障害を抱えていれば3年後
- 目先の就労が生涯賃金を増やすか
 - 学力を身に付ける、適性を探す
 - 知的障害がある場合にこそモラトリアムを
- 1日8時間、年間250日、40年働いたとすると
 - 時給400円なら3200万円
 - 35年でも900円なら6300万円
- モラトリアムを作っても生涯賃金を増やそう

モラトリアム(2)

- モラトリアムは発達課題があるときこそ必要
→今まで「ゆっくり」だったのにどうして「急ぐ」?
- 卒業しても働く準備ができているとは限らない
- 仕事以外に楽しむことができることを見つける
→それによって対人関係が広がる
- 成熟した自分を感じることはself-esteemが上昇
→選挙権を持つ、口座を作る、スマホを持つ
- 障害を抱えているとしばしば
→やりたいこと、好きなことを見つけるのに
時間がかかる

25歳の時に
何をしているか

40歳の時に
どこで暮らしているか

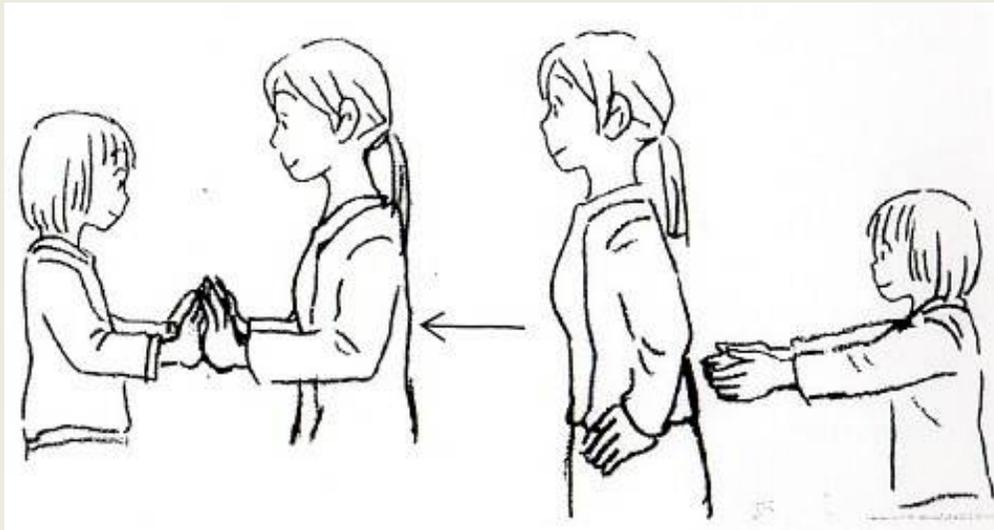
将来を考える

- 子どもたちでは25歳のときに何をしているか
- 大人たちの場合には3年後、5年後
- 具体的に考えよう
 - どうやって食べて行くか
 - どんなところで生活するか
 - そのためには何が必要か
- 今のことだけではなく、将来目標が大切

中学生になったら・・・



距離感を保つ



- 対人関係には心理的だけでなく物理的距離感も重要である
- 1m前後の距離が話しやすい
- 体の部分接触も時には有効

心理的距離感と物理的距離感は関連する

自分でクールダウン



- 腹が立った時怒りのエネルギーはものに当たるのではなく
- 自分の両手を握りしめて10数える・・・クールダウン
- 失敗したら途中からもう一度
- くりかえすうちに自分なりの方法を編み出すことも多い
→ペンダント、耳たぶ、ネクタイ
- 深呼吸も有効

自己管理

- セルフコントロール
- 朝起きて、夜寝るまでの1日の生活習慣
- 栄養、清潔の管理
- 友人関係のつくり方
- 一人暮らしが出来るかどうか
- パートナーの選び方
- 適切な余暇活動
 - 何をしてもいい時間は混乱しやすい
 - 作業の目先を変えるだけでも十分なことも

金銭管理

- 記録する習慣は小学生から(小遣い帳は基礎)
- 予算を立てることの重要性(計画性を作る)
- 見えるお金と見えないお金
 - クレジットカードはプリペイド
 - スマホゲームなどの課金は危ない
- 努力しないで儲かる話は「ない」
- 自分のお金の話を他人にしない
- お金を稼ぐ(お手伝い、アルバイト)

SNS、メールのリテラシー

- SNS (Lineを含む)、メールは必ず下書きする
→読み直してから投稿する
- 5分ルールには乗らない
- SNSやメールで批判はしない
- TwitterやFacebookは間違っと思ったら消す
→それでも残ることがある
- 自分の部屋で撮った写真は送らない
→送った写真は一生残ってしまう(リベンジポルノ)
- 寝ている間にスマホを居間に置くことが目標

性の問題：女性

- 月経をめぐる問題：ちゃんと練習する
 - 身長が急に伸び始めたら性教育
 - 使用後は1つずつビニール袋にパック
- だまされやすさに関連すること：話には裏が・・・
 - リベンジポルノの危険性
- 誘われた時どうする：手順は決めておく

アスピーガールの心と体を守る性のルール
デビ・ブラウン著 TOYOKAN

性の問題：男性

- 母と一緒に入浴しなくなったら性教育
- 異性や同性への距離感の取り方
- メールではなく、リアルに話す重要性
- 二次障害を起こすとしばしば性暴力が起きる
- 時に思い込みからの性非行が見られる
- 自慰は構わないが時に構造化が必要
- 裏ビデオなどの見方(一人で見ない)

将来を考える

- 子どもたちでは25歳のときに何をしているか
- 大人たちの場合には3年後、5年後
- 具体的に考えよう
 - どうやって食べて行くか
 - どんなところで生活するか
 - そのためには何が必要か
- 今のことだけではなく、将来目標が大切

大人になって
自立すること

十分にはできなくてもそれに
近づくこと

GOAL: 最終目標

- 自分に自信の持て self-esteem の高い子どもに育てる
- 社会で生きていけるように育てる
 - 社会生活習慣を身につける
 - 自分で稼げるようにしよう: 自立を目指そう
- すべての対応や医療・教育はこのためにある
- 発達障害だけではなくすべての子のために